京都の民主運動史を語る会

슾 報

### 2012年5月15日 第 200 号

題字 住谷悦治



燎 原 社

(京都の民主運動史を語る会) 代表 岩井忠熊

務

京都市左京区高野東開町 1-23 第三住宅 33-302 井手幸喜

〒 606-8107

tel & fax075 (722) 3823

連 載

1980年3月15日

(1) 昭和55年3月15日

燎

原

第 1 号

残しながら、ここに八○年代を迎えるの新憲法へと、いくたの変遷と教訓を 戦後の平和と民主主義のためにたたか 無産運動で活躍された方がたをはじめ 年の歳月が流れ、戦前、京都における ことになりました。 かえりみれば、 九〇〇年代は、明治憲法から戦後 戦後もはや三〇有余

た、それらの資料も次第に失われ、こ われた人びとも少なくなりました。ま まっています。 を惜しむ声は、各界・各層のなかで

たまたま、

### 発刊 昨年は京都の産んだわ のあ 3

時代を再びくりかえさせないために な人びとに伝え、あのいまわしい暗R 運動史を語る会』が結成されました。 たすばらしい民主運動の傅統を、広り お願いいたします。 各界のみなさまのご支援と、御参 わば『語り部』として『京都の民 戦後の京都を中心を中心と

京都民主運動史を語る会 協力を訴えます!

関心が高まってきております。 る資料の保存と、その歴史についての 開されて、これを機として、真実を知 行事が催され、また、貴重な資料が公 肇生誕一○○年を迎えて、各種の記念 後五〇年と生誕九〇年、そして、河上 国の民主運動の先駆者、山本宣治の

で次第に明らかにされていますが、今 と民主主義の歩みは、戦後各界の努力 ヨなお多くり資斗が長公開のままこ甲 日本の顔といわれてきた京都の平和

頒 価 年額(十二回)二、〇〇〇円 一部一〇〇円

振替京都一五七六二番 電話京都(七六一)二一 木村京太郎 (送料別

発行所

京都市左京区東竹屋町川端東入る 社団法人「部落問題研究所」 四 内

次代に継承せしめるため、ここに『京 された先人の足跡を調査・研究し、 る人がたの協力を得て、今日までに残 都の民主運動史を語る会』を結成する 過去の遺産を現在に生かし、さらに、 く知識の交流・資料の集積などにより 加された人びと、その歩みを研究され 産者運動、平和と民主主義の運動に参 ことにしました。

広

よびかけ人 井垣次光 西村清三 塩田庄兵衛 品角一郎 井上秀雄 京都の民主運動史を語る会 一九八〇年一月 北牧孝三 細川三酉 稲田達夫 (五〇音順) 則 木村京太郎 井上喜代松 山田幸次、 住谷悦治

協力をおねがい申し上げます。

何率、各位のご参加と、ご支援・ご

与ニン 条 この会は「京都の民主運動史 京都市内におく。 を語る会」といい、 こうぎょ しつつ三たこらナ 連絡事努所を

## 本会の名称が決まる頃 200号刊行に寄せて―さらなる史実の発掘を 岩井

小田切明徳

3 2

忠熊

200号記念特集 その時、 私は

須田 稔/藤井舒之/井上吉郎/馬原

《資料》戦火に巻き込まれていた大学 戦時下の京都の大学で教授は何をしたか 【悼】 佐藤良輔さん ―桂高校校長から京教組委員長に [連載]彼らを通すな ―立命館「大学紛争」のなかの青春― (7) 山本 鈴木 ΙĒ 元 行 (5)

> 7 6

9

4月例会報告 50年前後の同志社学生運動 森 潤さん

BOOK「たにぜん(谷口善太郎)の文学」 6

会員消息 13 総会と懇親会のお知らせ /情報スクラップ/編集後記

14

12 11

【京都の民主運動史を語る会】年会費(会報代とも)3,000 円 郵便振込口座 01060-7-15762 加入者名 燎原社

を可言い前には福祉、交互のかにので、 いうほかない。私は代表ということになっており、事り聞いたりした。『燎原』200号とは何ともスゴイと結局「三号雑誌」に終ったという話はあきるほど見た結め、ご言気込んで原稿を集め、読者を勧誘したが、

実何年か前には編集・校正もひとりではじめはただの読者にすぎなかった。 との内に「京都の民主運動史を語る会」 の結成や会報『燎原』の刊行にかかわった方たちがしだいに物故され、その 事業を受け継いできた天野和夫氏が病 にたおれて「後を頼む」といわれた。 そういう事情を知っていた私はそれで そういう事情を知っていた私はそれで はと引き受けたのが真相である。

ないという考えである。とめた人たちも同様に逝去された。私とめた人たちも同様に逝去された。私とめた人たちも同様に逝去された。私とめた人たちも同様に逝去された。私

らなる史実の発掘を

本会代表

『燎原』

さ

を一層強くする。

市長を中心とするハシズムの横行を前にしてその思

て発表する場を『燎原』に求めていきたい。橋下大阪

をしていたのか。私はそのような事実をさらに発掘し

状況の下で、

が戦争末期の勤労動員で三光造船(河本敏夫社長)にわれる。残念ながらすでに故人である。その加藤さんといえば私も面識があったし、知る人も多いことと思龍谷大学教授として教育学を教えられた加藤西郷さん

■ 書会をしたという。 エルバッハ論」「空想より科学へ」の読という人の指導でエンゲルス「フォイという、 龍大学生寮の寮長だった河合徹

200号刊行に寄せ

岩井忠熊

一九四五年のポツダム宣言による降 はもっと知られていいことだと思う。 はもっと知られていいことだと思う。 が果たした役割は注目にあたいする。 が果たした役割は注目にあたいする。 での場合、二人の「思想前歴者」 が果たした役割は注目にあたいする。 でういう人たちは特高警察の監視下に あったことは確実といえる。そうした

## 執筆者紹介

2

**岩井忠熊**(いわい・ただくま) 本会代表。立 岩井忠熊(いわい・ただくま) 本会代表。立

藤井舒之(ふじい・のぶゆき) 本会世話人。授。宇治市在住。

馬原 郁(まはら・いく) 本会世話人。左京ジン「福祉広場」編集長。北区在住。井上吉郎(いのうえ・きちろう) WEBマガ西京区在住。

区在住。

鈴木 元(すずき・はじめ) ジャーナリスト。 国際環境整備機構理事長。西京区在住。 国際環境整備機構理事長。西京区在住。

山本正行(やまもと・まさゆき) 京都退職教山本正行(やまもと・まさゆき) 京都退職教

# 誌名が「燎原」に決まるまで

題名については創刊当時、世話人っことで「道標」「いしぶみ」「野火」うことで「道標」「いしぶみ」「野火」などの案もありましたが、結局「一などの案もありましたが、結局「一などの案もありましたが、結局「一などの案もありましたが、結局「一などの案もありましたが、結局「一などの案もありましたが、記号では縦のは住谷悦治先生、第10号までは縦のは住谷悦治先生、第10号までは縦の月)から今日のような横位置でバッ月)から今日のような横位置でバックに品角一郎氏の絵が入りました。

# 本会の名称が決まる頃

小田切明徳

牧孝三の名が連なっていた。 山田幸次、井垣次光、細川三酉、北 備会世話人代表として、木村京太郎、 いる (1979年7月19日付)。 準 称)」のチラシが私の手元に残って 短いものなので呼びかけ文を紹介 「京都の革新の伝統を守る会

引き継ぐ青年の任務でもあると思 たち老人だけでなく新しい世代を さんと協力してきました。山宣の います。又、京都の民主革命の先 行跡を継続発展させることは、私 周年行事にも京都の山宣会のみな 織している土曜会は今回の山宣50 私たち旧友クラブの仲間で組

> 輩たちの歴史的伝統を受け継ぐた 究は大切です。」 めにも京都の民主運動の歴史の研

世話人として北牧孝三と木村京太郎 の連名で出されている。 書体の「研究・懇談会ご案内」が、 った。その前日の18日には、木村の 衛の指導を受けることも明記されて けであった。立命館大学の塩田庄兵 いた。このチラシは井垣の書体であ 7月19日(水)夜6時から9時 山宣没50周年記念行事前年から準 場所、部落問題研究所の呼び

備を始め、戦前の山宣の同志たちが 動のOB会が組織したもので、土曜 集まり、直接、我々にその経験を語 会は北牧、木村らの組織だった。 る場となった。旧友クラブは労働運 脳梗塞の後遺症の失語症を持って

研究 "铁层二器内

朝夕凉しさを加え、凌ぎょくなりました。

衆院選挙で大へんご多比のこととないます

当時の本社会依勢を顧みて、現在上対処する敬訓を汲年記念祭で参集された方々の中で山宣が聞われ さて今春故山本宣治代議士の五の年己と生徒八

出したいとの話合い特にれ、荷志によって を深くようにとり要望がありました、

つきましては そのや一回の研究懇談会を左

記 の画

木村京太郎氏の書体の案内状

一九七九年九月一八日

京都市左京区東竹屋町川端東入

(仮称) 戰前の社会運動玩気無該 社田法人 部落問題 死完 竹内

古話人、北牧孝二

間86万円)などを提案した。会誌は

燎原」(月刊)、年1回総会

(親睦)

等を決めている。

相談が半年ほど続き、翌年の3月4 担していたようであった。こうした まって相談していた。私はたまたま 史を語る会」(毎月1回)。予算(年 述べ木村が最後をまとめる仕事を分 案内状もよく届いた。北牧が挨拶を 近くにいあわすことが多かったので できぬもどかしさを持っていたが、 日の部落研会議室、名称「民主運動 いた北牧は自分の思いをうまく表現 あの続きを相談しよう」と連日集

「電子ブック版」 『燎原』

各巻頒価 3000 円 (送料共)

●第1巻(創刊号から第50号)

CD-ROM 版

- (第51号~第100号)
- (第 101 号~第 150 号)
- (第 151 号~第 200 号) =近日発売!

\*ご希望の方は、事務局まで電話またはFAXでお申し込みください。

京都の民主運動史を語る会 TEL&FAX 075-722-3823 (井手方)

### ヴェトナムで聞 知 事 選勝 利

須田

稔

秋には明治百年を考察する講演会が 生が証人。傍聴はできず警護が任務。 杉村敏正・直木孝次郎・青木一諸先 が京都地裁であるので京滋支援連絡 国内留学を許可された8年後期に事 ター共同研究者の一員となり、 男先生の要請で65年に京都教育セン 立命館広小路の法経大教室で大盛況 会を急遽結成、その事務局長にも。 の初の海外への旅であった。 1970年末の訪越は満3歳の僕 家永教科書裁判の出張尋問 細野武 初の

わってもらえないかと僕に打診。 新婦人会長を団長とする訪越団に加 府連会長でもあったが、石井あやこ 委員長は日本ベトナム友好協会京都 出していたが、僕は「ベトナムの教 センターは『季刊 の連載を始めた。水口正京教組 教育運動 を

戦など5項目」を提案。 アメリカは5月1日に北爆を再 10月7日に「インドシナ全域停 北爆も停止。

> ビエンチャン経由でハノイへ。先に 祝賀する日ベト協会代表団なのだ。 タイ警察に逮捕されたという報せを 本院長一行がタイ国境に入った途端 訪越し帰途にあった吉祥院病院の橋 民主共和国創建45周年・南ヴェトナ 死去していたが、70年はヴェトナム ム解放民族戦線結成10周年。これを 前年9月3日にホー・チミン主席は 12月下旬、 代表団5人は香港から

いて不安がよぎった。 トンニャット・ホテル、モスクワ

聞

差を目撃したのも衝撃だった。(す ッタ経由。インドの貧困と貧富の格 マティックであった。帰途はカルカ 事選挙を闘ったし、この訪越はドラ 職員組合委員長として激烈の70年知 ら慰労されるとは。ぼくは立命館教 つもりが、よもやヴェトナム人民か 苦難の抗米救国闘争を激励しに来た 時、僕は感動で胸が締め付けられた。 都の知事選挙に勝利した」と語った 会者が「今年4月、日本の人民は京 各地で歓迎集会が組織されていた。 製ヴォルガという車、準国賓待遇か。 山間の約800人の屋内集会で、 司

# 培われた「自主・自立」 旭丘中学校事件のこと

校に駆けつけ、跡片づけなどを自主 受けましたが、たくさん生徒が、学 強くしていたからだったと思いま れまでに育てられた自由な校風が、 的にやったことを覚えています。そ 室が焼け落ちました。大きな衝撃を が起こり、比叡山が見える側の8教 1953年4月29日、不審火で火事 合うような学校でした。ところが な空気がいっぱいだった」と語り 学校で、今でも友人同士で「自由 見える小高い丘の上に建った木造の 「自分たちの学校だ」という思いを 旭丘· 中学校は、比叡山が真正面

みのる・立命館大学名誉教授

徒が会場前に集まって校歌を合唱 保護者総会だったと思いますが、牛 学校側が実情の説明のために開いた 特にマスコミに強く見られました。 図的に原因を作ろうとするうごきが 意か」などの風評もばらまかれ、意 い生徒による」「組合の先生の不注 る」といっていました。「だらしな 的な質問に腹を立てたのを覚えてい と聞いてきたりして、あまりに意図 徒がタバコを吸っていなかったか? 人は「すぐさま新聞記者が来て、生 しかし、当時生徒会役員だった友

> いうこともありました。 いたビラが校下に張り巡らされると 教員を追い出せ。赤化防止団」と書 力も育てたのだと思います。「赤 ました。当然、なぜ!と深く考える する」ということを知るようになり て、「新聞が事実をねじまげて報道 いう状態でした。こんな経験を通し ョナルを合唱」と新聞が報道すると た翌日には、「生徒がインターナシ し、自分たちの学校を守ってと訴え

です。 ということですが、まさに事実を捻 学校の偏向教育」が取り上げられた が提出され、そのひとつに「旭丘中 狙われ、国会に「偏向教育の事例 をすすめる「教育二法案」の強行が じ曲げて偏向教育の事例にされたの 当時、 国会では「教育の反動化

しかし、 実際の学校の状況はとい 藤井舒之



三先生を囲んだ当時の旭丘の子どもたち 左から寺島、北小路、山本教諭)



を聞かない生徒と対応しながら、一 おそらく先生方もなかなかいうこと に運営されました。今から考えると ましたが、生徒側の役員の主張が主 各部署に先生が顧問としてついてい それぞれ担当委員で運営。もちろん た。修学旅行も、文化祭や体育祭も 選ばれた図書委員で運営されまし 委員でしたが、図書館も生徒の中で 運営が根付いていました。私も図書 うと、学校生活の多くの場で生徒会

> ことを通して、自由な学校に作り上 げられていったのだと思います。 うのです。そしてこうした具体的な つつ取り組まれたのではないかと思 育がどういうものかと、問いかけ 生徒の自主性を大切にする

きくなっていきました。 明を出したり、支援の取り組みもし のぶゆき・本会世話人) 動する」という力が受けつがれて大 中学で培われた「自ら考え、自ら行 り、生徒会活動やクラブ活動の中に、 校授業料値上げ反対闘争などもあ ましたが、すぐに京都府下全体の高 き、そこでも「旭ケ丘を守れ」の声 て高1で、多くが市立紫野高校に行 月~6月には、私たちは卒業してい 事件が、 山場を迎えていた54年4 (ふじい

ど理解の外だった。

## 1964年第1回原水禁世界大会 タ立の中、平和行進 井上吉 郎

いる。 を50年近くたった今も鮮明に覚えて ら「お前も4年か」と言われたこと 校4年生」と呼ばれていて、友人か 事だったので、1964年のことだ。 て、「カンブリ」(関西文理学院)は「高 京都市内の公立高校の生徒にとっ 僕が「大学浪人」中の夏の出 来

ていた。社会の動きや政治に無関心 夜遅くまでの語らいの時間を過ごし 復、大学に進んだ友達との奈良通い、 浪人中の僕は、 家と予備校の往

を知ったのか、なぜそのデモについ 場所は烏丸北大路の大谷大学の横 うしたことか、烏丸通りを北上する てやその出来事が持つ重大な意味な 行こうと思ったのか、いまでは思い た。なぜ、どうしてそのデモのこと 人々は「原水爆の禁止」を訴えてい デモに魅せられ、魂を奪われたのだ。 持っていなかった。そんな僕が、ど ではなかったが、特別の政治思想は ?確でなかったかもしれない。まし しせない。いや、その時もそれほど



回原水禁世界大会の平和行進 (京都・烏丸通)

みつくようにして、僕は大会に のフェンスの外に体を寄せて、 った。府立大学のグラウンドの西側 なく原水爆禁止を訴える人々の姿だ 深かったのは、豪雨にたじろぐこと 象に残っている。そして何より印象 強烈だったし、昼下がりの京都盆地 学グラウンドに向かう隊列だった。 が出あったデモは会場の京都府立大 原水爆禁止世界大会が開かれた。僕 にシャワーのように降った夕立も印 原水爆の禁止」を人が訴える姿も 1964年8月、 京都で第10 口

「原爆反対」

がいる。そんなこともあって、がある。広島の対岸の愛媛県に の街を歩き回り、 った。長崎は修学旅行で行ったこと 広島をめざし、一人で夜行列車に乗 翌年、大学に入った僕は、 広島の対岸の愛媛県には姉 何人かの人からお 広島

> に引き付けたとは言いすぎだろう も出会った。前年の体験が僕を広島 った)した。「右翼」の街宣カーに なかったので正式には参加できなか 回世界大会へも「参加」(「代表」で 話を聞き、慰霊祭に連なった。

寄付しよう。 福祉広場編集長 のうえ・きちろう しい自分に生まれ変わろう、と。 イトをして、そのお金を原爆病院に せて考えた。京都に帰ったらアルバ 被爆から20年の広島で手を合 学校が始まったら、 WEBマガジン

を貼るま 馬原 郁 京陥落」 ばかりの日々 の事件はやっ 変わった最大 ですが、私が ぎて尚、 を八十年も過 恥多き人生

さと逃げるはロシアの兵 破裂して日露戦争が始まった、さっ した。 して作った提 祖母が嬉々と 九州の寒村で す。その昔、 ぱり敗戦で 灯を持ち「南 賀行列をしま 死んでも 列談判 の祝 原 燎

軍国少女が

## 加 藤則夫著 たにぜん (谷口善太郎)

置づけることを追究した論集 を近代文学史の中に正当に位 跡を丹念にたどり、 人間形成過程と作家活動の足 の顔」と称された谷口善太郎。 衆議院議員団長をつとめ「革新京都 日 本共産党創立時からの党員で、 谷口作品 その

プロレタリア作家として 品評価に関する論争 次々と変えて執筆せ 形で評価されてこな ならずしも著名な政 のすぐれた業績はか ざるをえず、また作 圧下でペンネームを かった。そこには弾 治家として知られる 一谷善」と統一した 加わることもでき を近代文学史

BOOK

がある。 接の活動ができない時期に創 権力の弾圧などで直 なかった特殊な事情 善|

陶器職人として働きながら現 いた時代に求める。一家離散の危機 代短歌同人に加わり啄木に心酔して 動のルーツを石川県国府村で に影響しているといえる。 作家としての「谷善」の評価 作活動が集中していることも 著者は、「谷善」の文学活 東京へ出たが挫折、

> 彼が生み出した作品に統一されてい 業革命家となる。 る。文学を「武器」に、社会と人間 し続ける姿勢は、「谷善」そのものと ヒューマニズムと科学的真理を探求 その中で苦闘しながら形成された 宣治、河上肇らとの出会いと活動。 都で再出発し階級意識にめざめて職 0) 真実に迫った代表的作家のひとり 国領五一郎、山本



としてもっと光があてら がれることが望まれる。 ń 読 み 継

集にあたった。「枯野」同人である佛 されていたもので、長男俊勝氏が編 十一月に他界した。遺作となった本 めた「谷善」の娘婿であるが、 を読む』と題して序をよせている。 教大学教授・坪内稔典氏が『「谷善」 1260円。 は文学研究同人誌「枯野」に連載 著者は平安女学院高校副校長を務 ウインかもがわ発行、 四六判、 昨年 ŝ

> すべて遊びが軍国調の歌ですすめら 尽すは日本兵」。お手玉も手まりも 頭試問と砲丸投げ、立派な軍国少女 れ、一九四四年、女学校(旧制中学、 義務教育ではない)の入学試験は口

テラスが生まれ、二回目にスサノオ ちないのかなぁ)、「伊勢神宮の柱を 雫で八つの島ができた、これが日本 は「三種の神器」の一つで日本の宝。 オが退治しておなかから出てきた剣 の国の始まりです」(雲の間から落 あります。 くもまあ騙されたものです。 いる」など山ほどあるこんな話 た」(不思議だなぁ)。村里へ出てき イザナギとイザナミが出会ってアマ た神様が鉾で海をかき回し、落ちた ては娘をさらっていく大蛇をスサノ (尊称の命=ミコトは略) が生まれ 代々の天皇の即位で引き継がれて でも不思議に思ったことも幾つか 歴史の授業で「雲に乗っ ょ

炒り豆送って…」と…。たまに送 見ては「ばあちゃん、かち栗送って、 舎から都会の学校に入学した私は寄 る」と竹槍訓練に励んだ一三歳。田 ないと制裁されました。 おなかが空いて空いて…。 西の空を 宿舎に入りました。食べ物がなくて てきた炒り豆も同室の上級生に配ら 人一殺、死ぬ気でやれば戦争に勝て 「アメリカ兵が上陸してきたら一 軍隊式寄宿

> くださいました。縄文式、弥生式。 食べ物もいくらか市中に出始めまし それからは「青い山脈」の世界です。 校四年から高校二年になりました。 が改革されて男女共学になり、 目がぱちくりでした。四八年に学制 回、ガリバンに刷った歴史の文章を の勉強でした。歴史の福井先生が毎 夜は寄宿舎の部屋、墨塗り教科書で 女学

うになりました。今は昼間に貼って ところしか貼れません。 けず、背も伸びなかったせいか低い います。育ち盛りに食べ物にありつ のポスターを、夜中に貼って回るよ 入ってからは糊のバケツをさげ、 門学校が大学になり、そこの短大に おかむりをして電柱に「原水爆反対 県庁所在地にあった師範学校や専 ほ

史の片隅のミクロ人間」。それが私 私の戦争談義は続きます。「微力だ うもんか。人間はいつだって何か食 の理想です。 が無力ではない」「大海の一滴」「歴 べたいし、 会世話人) 口だけは達者なので機会あるごとに いてくれません。そんな時代があっ たことなど信じてくれません。時に 「時代が違う」と一蹴されます。 私の飢餓時代の話は誰も本気で聞 自由に人と話がしたい、 (まはら ・ く い 違

稿を募集します。どしどしお寄せ 引き続き「その時、 下さい。800字以内 私は…」の原 (編集部

焼け跡の校舎で昼は教室



## ■第7回■

# 立命館「大学紛争」

世界・全国に広がる大学紛争

後になって、被処分者の一人が事件 名の処分を強行し、3月11日、大学 加した学生4名の退学処分を含む17 は春美医局長とのカンヅメ交渉に参 ライキに突入した。その後、教授会 学部は登録医制度反対の無期限スト 当日その場にいなかったことが判明 評議会でこれを可決した。ところが 分を撤回しなかった。 した。東大当局は、その後もなお処 1968年1月29日、東京大学医

学と寮連合は対立のまま交渉を終え ぐって交渉していて、 治会連合と大学の間で舎監制度をめ 立命館においては、このころ寮自 3月25日、

明るみに出た。積年の「経営主義」「民 主化要求運動が爆発し、5月27日に これを契機に、日大では大規模な民 主主義抑圧」の一角の発覚であった。 日大全共闘 1968年、 日本大学で「20億円の脱税」が (議長秋田明大) が結成 新学期早々の4月2

このころから日本各地の大学で学

める運動が広がった。 リカでも、ベトナム反戦運動と連動 がる国民的闘争となった。またアメ は、やがて労働者のゼネストへと広 月危機」と言われた学生の抗議行動 けフランスでは、パリを中心に「五 生反乱」が起こりはじめた。とりわ そして海の向こうでも、同様の「学 超える大学で紛争が広がっていた。 争が多発しはじめ、この年100を しながら大学運営への学生参加を求 費値上げや管理運営などを巡って紛

残るのは経営学部だけとなった。 会選挙で文学部自治会が再民主化さ 立命館においては、5月の自 理工学部自治会も民主化され、 治

## 東大封鎖」めぐる攻防

挙であった。 の有志グループによって行われた暴 ド封鎖は、医学部全共闘という特定 共闘」は安田講堂を占拠し、バリケ ドを築き封鎖した。このバリケー 方、6月15日、東大医学部「全

を排除した。導入の知らせを聞いた 1200名の機動隊を導入してこれ 6 月 17 日、 東京 大学当局 は、

鈴木 元

きなかった。しかし れといった混乱は起 に退去したので、 封鎖学生達は速やか

大学当局による機動

入した。 ひろがり、法学部、理学部、 動隊導入」に抗議する世論が急速に を除く7学部が「無期限スト」に突 生の間では学部も党派も超えて「機 隊導入に対して、 薬学部 学

隊を導入した大学に対する批判とと 開催され、学生、院生、教職員を含 なんの決議もできなかった。 共闘」に対する批判も出され、 もに、安田講堂を封鎖した医学部 七時間に及んだこの集会では、 めて6000名が参加した。しかし する全学集会」が安田講堂前広場で 6月20日、「機動隊の導入に抗 、機動 結局 全 議

ということが大きな声となった。 ば警察の介入を導くので「封鎖反対 り「大学への機動隊の導入」は絶対 相容れないものという考えが深くあ よる封鎖行動が起こり、 うことが慣行として確立していた。 大学に連絡し、その了解を得るとい 必要性が生じた場合、警察は事前に あった。そして、警察が大学に入る に許されないものとする思いが強く 学人の中には、大学の自治と警察は ところが東京大学で一部の学生に 当時、学生だけではなく、 封鎖を許せ 広く大

> るのかという難題が全大学人に突き 付けられることになった。 かしそれでは封鎖された場合どうす

## 第二次学園民主化闘争の開 始

我々はこの時期の闘争全体を「立命 課題の複合的闘争の開始であった。 を守れ、などであった。まさに諸 ⑤大学管理運営法反対・大学の自治 戦争反対・沖縄返還、③総長選挙規 前阻止、 定した。 館大学第二次学園民主化闘争」と規 定の民主化、④「明治百年祭」反対、 一を行った。中心は①学費値上げ事 夏休みの合宿で秋の闘争の意思 ②アメリカのベトナム侵略

学園振興懇談会において、明治百年 度からの学費値上げは行うな」の要 すこと、1969年の学費は据え置 祭に対して大学として抗議声明を出 心にスト権を確立した。それを力に、 各学部学生大会で上記の五課題を中 した。こうした中で経営学部を除く 求を中心に当面の19項目要求を提起 行った。学友会側から「1969年 し、全立命人による抗議行動を起こ 9月18日、学友会は理事会交渉を 夏休みを終えて新学期を迎えた。

を超える学生がデモに参加した。そ して10月23日、 上のクラス決議を基礎に2000名 リカのベトナム侵略反対で100以 きとすることが確認された。 10月21日の国際反戦デーにはアメ 六者共闘主催 「明治

**闘い」という生活が続いていた。名のデモを行った。こうして「日々名のデモを行った。こうして「日々会」を開き、円山公園まで1500百年祭反対全立命館大学人決起集** 

# 東大闘争の新局面と全国的支援

11月16日、文部省は長期にわたって紛争状態となり授業が行われていて紛争状態となり授業が行われていない東京大学、日本大学に授業再開を要請する通達を出した。提案が予定されていた「大学管理運営法案」でされていた「大学管理運営法案」では、文部省が「紛争校」と認定すれは、文部省が「紛争校」と認定すれは、文部省が「紛争校」と認定すれた。そしてまさに東大をはじめとする上記四校はその対象となる危険があった。この点では「全共闘」による大学介入の口実、引き金となっていた。

実現できたのである。 こうした動向もあって11月1日、 
東大当局は医学部学生の処分を撤回 
東大当局は医学部を表示している。 
東大当局は医学部を表示している。 
東大当局は医学部を表示した。 
東大当局は医学の 
東大当局は医学部を表示した。 
東大当局は医学を表示した。 
東大当局は医療を表示した。 
東大当

自己目的化した行動であったし、そ得目標を持たない、闘争それ自体が封鎖しようとした。これはまさに獲封鎖しようとした。これはまさに獲い、総合図書館、そして教養部を叫び、総合図書館、そして教養部を叫び、総合図書館、そして教養の

これに対して全学連に結集する学的な「闘争」に入っていった。 そして事実そうなっていった。 た。そして事実そうなっていった。 そして事実での自己破滅的で挑発生運動とは異質の自己破滅的で挑発のまま突入していけば大学解体へ行のまま突入していけば大学解体へ行のまま突入していけば大学解体へ行

体することではなかった。
政革が必要なのであって、大学を解的権威主義をなくし、大学の民主化・

主張したのである。

ない」とし「解体するまで闘う」と

# 片道切符だけで数百人が東大へ

11月16、17日に開催された全学連支援」を呼びかけた。政府の干渉を支援」を呼びかけた。政府の干渉を許さないために「全共闘」ニセ左翼許さないために「全共闘」ニセ左翼許といいが、第一人の全国的中央委員会は「東大闘争への全国的中央委員会は「東大闘争への全国的中央委員会は「東大闘争への全国的中央委員会は「東大闘争への全国的

この全学連の方針を説明し、東大闘私は学友会の活動者会議などで、

争支援の行動隊派遣を提起し、部隊を組織した。学友会は学内でのカンを組織した。学友会は学内でのカンパを含め行動隊に東大までの交通費は渡したが滞在費と帰りの交通費は渡したが滞在費と帰りの交通費はすることにしたのである。

家)であった。

家)であった。

こうして11月から12月にかけて立た。その中で刻々と変化する東大闘争の状況が分かった。全学連の現地争の状況が分かった。全学連の現地争の松尾徹書記長(故人)。行動隊責任者は立命館大学一部経済学部出争の松尾徹書記長(故人)。行動隊立た。

11月22日、東大全共闘は全学封鎖のために全国の全共闘によびかけ7000名が東大に結集し、一触即7000名が東大に結集し、一触即7000名が東大に結集し、一触即7000名が東大に結集し、一触即7000であったが全事も全国動員を沿した。

共闘」は学生大会粉砕などの妄動を共闘」は学生大会粉砕などの妄動をされた加藤一郎総長代行は、学生自治いだ加藤一郎総長代行は、学生自治いだ加藤一郎総長代行は、学生自治いだ加藤一郎総長で学生大会が開催され「ストライ会で学生大会が開催され「ストライ会で学生大会が開催され「ストライ会で学生大会が開催され「ストライ会で学生大会が開催され「ストライ会をが急速に進んだ。これに対して「全体を発展した大河内一男総長の後を継ばした大河内一男総長の後を継

繰り返した。

その中で明確になってきたことがあった。それは、封鎖をやろうとする者はセクトの各派が他大学から動員した者であり東大生はほとんどいなくなっていた。それに対して封鎖なくなっていた。それに対して封鎖なくなっていた。

後に、当時の立命館教職員から「全な気がしたものであった。

う」と、予測を説明していた。京都でも立命館大学でも起こるだろ起こっていることは、時間の問題で、

ていた。

(以下次号)
ていた頃、立命館大学では、我々に
は知らされていなかったが、大学側
は知らされていなかったが、大学側
は知らされていなかったが、大学側

料

「夕刊京都」 1946年連載 「戦火に巻きこまれていた大学」 より

⟨5⟩

この「資料」は、「夕刊京都」1946年5月18日から6月22日まで連載された記事の、 一ノ瀬秀文氏による要約です。

### (31)学長問題で教授団敗北 浄土教批判その後

(6月17日)

ごと」を唄いまくっている半僧半侶の巣 教授、講師はもっと多い)「そらごとたわ 帽で「裏町ジンタ」を唄った。ダミ声を くなると少壮教授がかこつ。 考えたりすると、馬鹿馬鹿しくておれな 窟がこの大学だ。「学問について真面目に はりあげて、一週平均二十時間(若い助 者)は、その何番目かに、龍大の制服制 ョー)が開演されたことがある。自分(記 「京都六大学」のレビュー(歌と踊りのシ 終戦よりも何年も前、京極の三流館で、

職を宣せられた。教授は「本願寺執行長」 この講座が物議の種だった。大正十二年 村直太郎教授に、次いで、宇野圓空、 徳教授を中心に発足した。学問の主力が が本願寺当局、大谷家の忌諱に触れ、解 (1923)、野々村教授の「浄土教批判」 材を擁し、三代の矜持を保ちつづけた。 教授を擁し、他の官立にも類を見ない人 松智城両博士、久松眞一教授、松井了穏 宗教学と哲学に注がれて、 学」を名実ともに築き上げようと森川智 大学令による大学に昇格した。その時「大 ぼ歴史を同じくした大学林の仏教大学は 話は昔に遡り、 大正末期、昌平黌とほ 宗教学は野々

> 側の勝利に終った。 きり立ち、教授団も結束して、京大事件 と関係ないと講義を続けた。同窓会はい のモデルのようなこの野々村事件は大学 (大学財団理事長兼任) の名の辞令は大学

機を窺っていた。 これを奇貨に花田凌雲一派は乗っ取りの 骨抜きにうつつを抜かし、大事を忘れた。 を一掃して天下り学長を押し付け、大学 派の中井玄道、佐々木圓梁両教授の勢力 の間に森川教授、梅原眞隆氏一派、純理 それから数星霜がすぎて、本願寺はそ

幕は稀代の策士花田前学長だった。 天下り学長となった。このロボットの黒 対立となり、教授団側の選出案は却下、 昭和四年(1929)、学長問題で正面

達」が学園を去り、「何ともしようのない 連中」だけが残ることになった。 い足並みの末敗れ、「最も残って欲しい人 たたかわれた。教授団は三カ月の重苦し 長いストライキが大学の自由のために

### (31)(ナンバー重複) 地獄一定の不治症 大学、本願寺に臣従

(6月18日)

団理事長で、大学に対して教学の経綸な るのは当然で、本願寺執行長が大学の財 [本願寺当局が大学の自由を毛嫌いす

入營を種に

天皇擬制の强辯

とだと考えている。 封建的坊主根性を叩き込むこ

となく、

川教授を筆頭に、中井玄道、 ない十三教授がついに席を蹴った。森 り出してきた。干渉をいさぎよしとし 黒幕として大学・教授会への干渉に乗 梁両教授、それに埜上教授、 光照法主をまつりあげ、策謀家花田を 戦時中は翼壮団長に陸軍中尉の大谷 寺本教授 佐々木圓

ずの松井了穏、大友抱換の二講師は外 授があった。若手で当然やめるべきは ても首がつながっていた。 遊中で、ソルボンヌでもむずむずして なくやめた藤島佑寛、宇津木二秀両教 がとび出し、洛北「顕真学苑」に結集 授に高千穂徹乗、大原性實両講師など に岡道固、玉置韜光、薗田香勳の三教 三度まで辞表を叩きつけたが、帰国し した。この二つの流れの外に、 もう一つの流れに、 梅原教授を盟主 なんと

ついに分裂した。学生委員は構内にた き火までして遠巻きに監視しつづけた。 は一昼夜以上も議論しあったあげく、 ハラハラして見守った。最後の教授会 三カ月に亘ってのもめごとに学生も

> 園の内外を横行し、御用新聞「文化時報」 れだ、奴は赤だという中傷と罵言が学 したので大学は慌て、松井はどこのだ

た国民の義務を果すにすぎぬ」と批判

範を垂れるとは何事か。ただ課せられ

びつけた。これにたいして松井教授が カデカと宗門天皇擬制と軍国主義を結 て入営され……」と談話を発表し、デ

焼きつくすのに浮身をやつしていた。 も、わずかに残った自由主義の伝統を

それより先、

会計監督の不行届で

衆生濟度から

た。大学の運命は内外ともに「地獄一定 せび酔って頭が変になり出した者もい び出した十三教授のうちにも戦火にむ の不治症を現出した。 ッショ化になじむ連中と、と この学生を酒色でつろうと祇 の親株だった。これらのファ ちに学長になった羽渓了諦博 黙派)、哲学の観山教授、 その一つにとぐろ巻き組 顕珠教授、松蔭了諦講師は をまいて宴席をもうけた増山 園中村楼で芸妓をあつめカネ 士、本願寺の戦争遂行に没頭 て、教授会はついに分裂した。 学生委員の硬派にきめつけら した朝倉執行長などが裏切り れ、詰腹を切らされた。そし

沈 0)

(32) 法主入営を種に天皇擬制の強弁 めざめ始めた反動本能

(6月19日)

第200号(2012年5月15日)

祝して本願寺当局は「国民に範を垂れ 和十一年(1936)光照法主入営を えで、学長指名の反動教授が轡を並べ 会は骨抜きで、大学評議員会も右へ倣 は花田学長の天下になっていた。教授

井、大友両人が帰国した時、

て天下り議案を鵜呑みにしていた。昭

燎 原

二十五万円つかいこみ事件が暴露して花口学長が退場した。しかし、その後も湯一味は、少しでもリベラルな同僚には実一味は、少しでもリベラルな同僚には実に陰険に、意地悪く中傷と圧迫を重ねてに陰険に、意地悪く中傷と圧迫を重ねてに陰険に、意地悪く中傷と圧迫を重ねてと仏教とを双生児だと考えるようになった。

態を露呈するようになった。 やがて無我夢中でファッショ便乗の媚 はじめた。本願寺や龍大のボスどもも 体制運動から翼賛会の幹部にすわり込 中が日本精神を叫び出し、梅原氏は新 象無象の家の子郎党まで押しつけた。 御大以下が大学に色気の出し直しをし た。「顕真学苑」に一度は結集した梅原 ようもなく、少壮連中が盲動しはじめ 浮世の風が吹き込んでくるのはどうし 引き起こすかもしれなかった。しかし、 田哲学にかぶれようものなら異安心を 間は浮世の学問に馬耳東風できた。西 を「外典」と呼んでいた。「内典」の人 み、本願寺は彼を執行にして得々とし を「内典」と呼び、哲学や文学、史学 て、玉置氏、高千穂氏が返り咲き、有 この宗門大学では、仏教関係の講座 増山氏が学監に返り咲いた。この連

# (33)左巻きになった真宗学匠たち

(6月20日)

コタテ学である。東洋の、ことにわがこの大学で日本宗教会大会が開かれ、この大学で日本宗教会大会が開かれ、この大学で日本宗教会と珍妙な学説を披露した。自称親鸞教と珍妙な学説を披露した。自称親鸞教と珍妙な学説を披露した。自称親鸞教と珍妙な学説を披露した。自称親鸞教と珍妙な学説を披露した。自称親鸞教との大学で日本宗教会大会が開かれ、ことにわが

全国の学問は反対に「タテの論理」に 皇国の学問は反対に「タテの論理」に 皇国の学問は反対に「タテの論理」に を変ってきた。こうして彌陀の浄土と と変ってきた。こうして彌陀の浄土と と変ってきた。こうして彌陀の浄土と

い説教がすみずみまで鳴り響いた。というな学指導本部が設立され、軍国主義に対ットが矢継早にバラまかれ、勇ましたが大きない。というなどは、軍国主義に教学指導本部が設立され、軍国主義に対して、戦時的本願寺と大学とが協力して、戦時的

なった。

## (34) 衆生済度から一億殺生へ (6月21日)

聖典のぶった切り、親鸞なんぞ何のとなり」とされてきた「宗教の世のいのち」は、現間のはげしい宗教者の良心を麻痺させ、びはついに宗教者の良心を麻痺させ、ではついに宗教者の良心を麻痺させ、ではついに宗教者の良心を麻痺させ、だはついに宗教者の良心を麻痺させ、が梅原真隆師だった。彼らは、その昔、が梅原真隆師だった。彼らは、その昔、が梅原真隆師だった。彼らは、その昔、が梅原真隆師だった。彼らは、その昔、が梅原真隆師だった。彼らは、その昔、が梅原真隆師だった。彼らは、その昔、が梅原真隆師だった。彼らは、その古、なり」とされてきた「宗教のいのち」は、現世の強迫観念に追いつめられた弱法があり出た批判性をつゆの世のいのちとなり出た批判性をつゆの世のいのちとは、変り」とされてきた「宗教の世のいのち」は、現世の強迫観念に追いつめられた引きない。

教家だ」と熱く訴えていた梅原師は、さらに、かつては「親鸞は民衆の宗

職」を果たすのに都合のいいようにつく会中央協力議員の各界代表者という「聖典語録をズタズタに切りとって、翼賛が親鸞の命でもある)を洗い流し、聖が親鸞の命でもある)を洗い流し、聖ー派の教学を左右する要職につくと、た一派の教学を左右する要職につくと、た

聖典改竄、これは便乗の総結集であり、宗教のいのちを殺す謗法への逆行だり、宗教のいのちを殺す謗法への逆行だり、宗教のいのちを殺す。と一般が追した。ところが龍谷大学の宗学と「長いものは」という。というは、それが自殺以上の罪悪だとがらも「長いものに巻かれる」という。

学校の教授連の戦争最後の決議であっ学校の教授連の戦争最後の決議であっらん」。これが信仰をいのちとするこのらん」。これが信仰をいのちとするこのらん」。これが信仰をいのちとするこのらん」。これが信仰をいのちとするとし、万歳を叫び、そしてそれから念仏し、万歳を叫び、そしてそれから念仏し、万歳を叫び、そしてそれから念仏し、万歳を叫び、そしてそれから念仏し、万歳を叫び、そしてそれから念仏し、万歳を叫び、そしてもをもかみきって、相果てねばならん」。これが信仰をいのちとするこの最後の操心を売りはたしたあとこの最後の操心を売りはたしたあと

# (35)絶望を感じ得ぬ悲劇

(6月22日)

木憲徳教授がいた。「外典」のほうでも、木憲徳教授がいた。「外典」のほうでも、の奇書で封建倫理を強調していた佐々りを述べ続けた深浦教授、「恩一元論」たことが行われ、日本精神と仏教物語たことが行われ、日本精神と仏教物語の音に変いた。仏教学の分野でのは真宗だけでない。仏教学の分野でのは真宗だけでない。仏教学の分野でのは真宗だけでない。仏教学の分野でのは真宗をはいた。

隊長、中隊長に命じられて、分列行進 などの発案で、年寄りの教員連中が大 秩序漫談で通し切った。ある日、ヨレ らず、真っ先に講読をやめ。一年間新 なっているじゃないか」と広言してい 上げた。しかし、何の役にも立たず運 問ぎらい」の学生を集め、学資も出し、 らに、専門部に興亜科を特設して「学 二博士を招聘して悦に入っていた。さ をしなくてもいい」ということだった。 の予行演習をやらされていた。「講義 ヨレのナッパ服や国民服に身を固めた た。もともと何の専攻かが自分でも判 ずかのストックが闇の高値を呼んでい いらぬよ。丸善を見給え。一冊もなく 会学も一人歩きできるよ。洋書なんて したのが大友だった。「もう日本の社 生に寮監の長納圓信氏をなぐると憤慨 営不能となり、一、二年で立ち消え、学 全寮制の軍隊組織のようなものを作り 一群が軍事教練に――それは大友学監 た。洋書は税関でまわれ右をして、わ さらに、あの京都帝大法学部の牧健

満州の開拓会社帰りの錬成の達人長 関できぬということは絶望することよ 望できぬということは絶望することよ 望できぬということは絶望がった。「絶 なことをした。こうして、全く絶望的 なことをした。こうして、全く絶望的 なことをした。こうして、全く絶望的 なことをした。こうして、全く絶望的 なことをした。こうして、全く絶望的 なことをした。こうして、全く絶望的 なことをした。こうして、全く絶望的 なことをした。こうして、全く絶望的 もしたらどうかと修正案を出すほどだ

## 佐藤良輔さん 八間らしく生きぬいた

由に生きる道を求めて出版社に就職し を体験し、敗戦を迎え復学。平和と自 争となり、「学徒動員」(『真空地帯』) 三高・京大の青春時代にあの太平洋戦 京都へ。大正デモクラシーの中で育ち、 樺太(現ロシア領)から秋田と南下し、 ました。肺炎、90歳でした。 尊敬していた佐藤良輔さんが急逝され たが、すぐ争議、クビとなり、 本共産党の誕生年)。 9人きょうだい。 佐藤さんは1922年生まれ 府立桂

裂をのりこえ、「統一」に成功(53年)。 され決意しました。そして京教組は分 藤さんは府立高教組幹部にぜひと要請 組はパージ者をかかえてたたかい、佐 特にレッド・パージの嵐の中、 高校教師となる。



写真は右が佐藤良輔さん、左は筆者 (撮影=長谷川英俊氏)

### 山本 元京都教職員組合副委員長 (京都退職教職員の会顧問 正行

府高書記長(30歳)となるや、折か

2012年1月5日、苦楽を共にし、

活動」に献身しました。 の相談、援助から連日の「真相報告会 小路・寺島・山本)代表の山本(25歳) 組代表として参加。旭丘中三教員(北 を受けていた平和と民主主義を守る旭 ら「赤い学校、赤い先生」の集中攻撃 大会が札幌で開かれるというので京教 丘中学校を支援。天下分け目の日教組

りこえ、大会は①旭丘教育支持、②教 その結果、商業新聞のアカ攻撃をの

> 族ぐるみ、地域ぐるみの大闘争、 かり無罪判決をかちとりましたが、家 部17名は警察の露骨な弾圧で を出しました。裁判は10年か く、京教組糸井委員長以下幹 でも支配者の弾圧ははげし 他に多数の処分者

そして、61年、今度は京教祖書記長の んと熱烈交流するようになりました。 も反対日教組」から「要求実現の運動 しい活動家を迎えました。また「何で さんも私も仲良く被逮捕者。 た私は、府立高教組、とりわけ佐藤さ 全入運動」へと展開し、教文部長だっ ′、文字通り「学力テスト反対・高校 60年安保の国民的高揚期は大量の新

# 桂高校校長から京教組委員長に

多数で決定されるという画期的成果を 政治活動禁止法案)反対決議が圧倒的 育二法案(教育の中立性法案、教師 撃の一歩でした。 握手は忘れられません。「池田・ あげた。あの時のお互いのあつい バートソン会議」・日米密議反

佐藤さんでした。

革新の灯台となりました。 国唯二つの勤評未実施をかちとり くに京都では蜷川民主府政下、 60年安保闘争へと発展します。と まれ、阻止はできなかったけれど 5・3・2割休暇闘争などがとりく 争でした。全国各地で全員集会や 勤務評定反対(57年~)の大闘 さらに、教育の反動化の大波は

> 間たっぷり協力しました。 佐藤さんと副委員長としての私が4年 何よりも要求と、人の声をよく聞く

りくみました。 理職のあり方」をきりひらき、教職員 父母の支持する民主的学校づくりにと 身出世主義ではなく「民主府政下の管 校長の道へすすみました。いわゆる立 まとめ実現する運動にとりくみ、教頭・ い授業で好評。職場でも仲間の要求を 師として、教科書にとらわれない楽し ました。そこでも社会(世界史) 体調もあり、一時、 桂高校にもどり の教

うハプニング?もありましたが、 途中、桂高校が夏の甲子園出場とい 全校

> にひろげる道をつくりました。 し論」を実践し、確信をもって全府下 あげて取りくみ、蜷川知事の

げたのも貴重な功績です。 間は、佐藤さんの勇気ある決断に感動 を守ってたたかう渦中にある全国の仲 又なあ」と握手だけ。「桂高校長から じめ、自民党の反動攻撃に抗するため 忙な中、「京教組40年史」をまとめあ しました。「あり方懇」の代表委員と に対し、日教組の革新的、進歩的伝統 くみ支持をひろげました。とりわけ、 総対話運動に、非行克服大運動に取り 81年、京教組は広範な父母と結びつく 京教組委員長に」とは大決断でした。 ました。久しぶりの佐藤さんは「やあ、 を京教組委員長に」ということになり に、最高の体制が必要となり、 して全国的役割を果たしたのです。多 たたかわない労働戦線の狙う「連合 ところが「高校三原則つぶし」をは

先生の「なるようになる」というコト もいつも展望を語り合い、故細野武男 ゲンを愛し、スジを通し、ふところも うたも吞むのもサンパツも好き。ニン ると割箸でタクトをふった良輔さん、 バに励まされました。宴たけなわにな しみの1パイ交流もしだいに自粛。で 私たちが資料を朗読して学習し、たの 内障」がすすみ、視力が極端に落ちて、 ふかい佐藤さん。 退職後は顧問となり、諸病とくに「緑

私たちの中で生きています。 のあつい言葉をおくります。 緒にして散骨してください」と奥さん さいごに「私が死んだら骨を夫と一 あなたは

# 年前後の同志社学生運

50

### 元 同 大学生新聞責任者の森潤 氏 が講 演

前後の同志社の学生運動」について語っていただきました。 で開かれ、 4月例会は4月7日午後、 元同志社大学学生新聞責任者の森潤さんに「1950年 東山いきいき市民活動センター会議室

で下山、三鷹、松川事件が起こされ 生として1949年に入学、学生数 選挙で共産党が35議席に躍進、一方 は1200人だった。同年1月の総 森さんは新制同志社大学の第 一期

受け、残った用紙は京都新聞社に売

は1500部しか刷ってないのに 当てられ、「同志社大学学生新聞

当時、

新聞用紙は占領軍により割

1万5000部と水増しした割当を

する声もあった。 載っているのか」と批判 が「なぜ他大学のことが た。京大病院看護婦不採 の交流はほとんどなかっ った49年当時、 た。同志社学生新聞に入 事件を取材して載せた 他大学と

## 迫 貫いた ^怒りのペンヘ

生新聞はこれらの模様や経過を大き 長崎の被爆者6人が体験を語り、学 た。チャペルの中での結成集会では 「同志社平和に生きる会」が誕生し 何もしないのか」と学生に問いかけ、 3000部ぐらいだった。 っていた。 嵐の中、和田洋一教授が「君達は 朝鮮戦争が始まり、レッドパージ 最高時 (51 52 年) で

進んだ。

50年5月、東北大イールズ事件が

全国学生新聞連盟を結成

学生運動の側面的援助を編集方針 東京から「赤い牧師」赤岩

心だったが、とりわけ経営を強化す の交換や共同での広告集めなどが中 国学生新聞連盟」を結成した。情報 せ、秋に30を超える大学新聞で、「全 り、すでにあった東京と歩調を合わ に迫られ、関西学生新聞連盟をつく 発生、全国の学生新聞組織の必要性

東京に広告専門の部門を設

書籍広告などを取った。

講演会に呼んだこともあった。 栄師や他大学の教授、知識人などを

## 同志社の青春時代だった

風に学生は「同志社は変わる」と期 であった。52年4月に、 員長)。教学、学部を超えた新しい 生。そして教職員組合(今井俊 50年代初期は、同志社の青春時代 岡本清一学生部長のコンビが誕 田畑忍学 一委



講演する森潤さん

待し、教員と学生の「一体共闘」

が

私が議長をやったが、 場に開かれ4000人が集まった。 志社大学全学教授会が破防法反対を の旗を掲げて参加、5月23日には同 揚した。メーデーに600人が紫紺 日には全京都学生集会が同志社を会 破防法反対闘争では京大以上に昂 破防法反対ゼネストの6月17 御所に機動隊

> 安永武人教授らが「さみだれで出て の衝突を避けた。 行ってくれ」と学生を説得、警官と だった。岡本学生部長や和田洋一、 600人が待機し、一触即発の状況

を超え、故人となった者も多いが、 自らに問うことが大事だと思う。 今も青春の志を貫こうとしているか 参加したことは忘れられない。80歳 ひるまず、屈せず、昂揚した闘いに 極左冒険主義の犠牲者も出たが、

## 夕刊京都では「全新聞」 書記長

りをペンで貫いてきたつもりだ。 事件記者や司法を担当、権力への怒 取材した。産別単一「全新聞」が「東 月まで在籍した。警察署取材を希望 を」と頼まれ10月から出社、55年4 売に移り、大津支局のあと社会部で をやったこともあった。56年から読 ていたので、この再建のため書記長 京」「国際」「夕刊京都」だけになっ 刊京都に入って創刊時の、志、復活 五条、七条署のあと府警本部で 和田洋一先生に呼ばれ

らもリアルな報告がありました。 京大、京都学芸大で闘っていた人か 況を見て回っていた」と発言、当時、 の申し入れや、総長の車でデモの状 学生部長の下にいた井ケ田良治氏が 「犠牲者をださないため、警官隊へ 51年の同志社に赴任、

(文責・編集部



## 諸先生方に感謝4月例会に参加して

いに浸りました。 とに帰ったような暖かい懐かしい思ただき、何十年ぶりで、何かふるさただき、何十年がりで、何かふるさがは、週日は思わぬ会合に参加させてい過日は思わぬった。

た過激な状況をしのぎ切った工夫とでした。また、井ヶ田先生の淡々とでした。また、井ヶ田先生の淡々といアジテーションをお聞きした思い内容で、久しぶりに昔の彼らしい熱内容で、久しぶりに昔の彼らとどいた

りました。ぼくら学生側のどうしよりました。ぼくら学生側のどうしようもない激発した気持を、よくお汲み取りくださった同志社の諸先生の想いが今更ながらよくわかりました。井手様のやさしさ、湯浅様のゆきとどいたお心遣い、中村様の真摯なとどいたお心遣い、中村様の真摯なとがいたお心遣い、中村様の真摯ないておられた多くの方々が、それぞいておられた多くの方々が、それぞいておられた多くの方々が、それぞいておられた多くの方々が、それぞいておられた多くの方々が、それぞいておられた多くの方々が、それぞいておられた多くの方々が、

の学生運動」についての論考を書く斡旋で、大原社研さまから「50年代斡旋で、大原社研さまから「50年代またおよびください。

こうした集まりが開かれるときは、

に書くことにしております。宗教者 志社のあの時代の熱い闘いを多面 解散)の中心メンバーが寄り合って 竜谷大教授)」(70年代に結成、 同志社平和の会(会長池本幸三・元 が担当することになっています。 大学教授・同志社大法学部54年卒) 筆の中心は太田雅夫氏(元桃山学院 発展、文化団体の活動などです。 の闘い、自治会の闘い、生協運動の お応えすることにしています。 ように、との要請を受け、「五十年代 昨年 執 的 同

ます。
ームを作って進めていきたいと思い力な味方を得ましたので、一つのチ力な味方を得ましたので、一つのチームを作って進めていきたいと思い

井ヶ田先生、その節はおねがいす

## 私も会員です

# 東京都武蔵野市 富田むつみさん

は? い。まず会員になられたきっかけ 務局です。お話を聞かせてくださ 一もしもし、京都の「燎原」の事

わよ。 でも面白いからしっかり読んでいる なんだったのか、覚えてないけど。

丑年生まれの12歳年上の長兄けは、いかがですか。 ─社会運動に関心を持ったきっか

(1913~1986) が京大農学部

化論の歴史をやったの。いわゆる進れ事件(1933年5月)で学友も逮捕されたと話していたのがきったけかな。兄は身体が弱かったから、実際の学生運動には参加していなから、たと思うけど。兄は生物学とか進れる。

# しっかり読んでます『燎原』

姉

都に行って円明寺団地の義理の

あらどうして、兄の法事に京との出会いがなぞのままですね。

一もしかして、お兄さんって、大一もしかして、お兄さんって、大学の故渋谷寿夫(かずお)先生大学の故渋谷寿夫(かずお)先生ですか。学生時代に中井正一氏のでサか。学生時代に中井正一氏の「世界文化」や「土曜日」などを隠れて読んだという。

とうございました。
一わかっているじゃないですか。昔々、富田さんの近所にいたところでわたしをおぼえていますところでわたしをおぼえていますところで見たんじゃないの。

開き手

佐藤和夫

くお願いいたします。で、お忙しいとは存じますがよろしることが多々あろうかと存じますの

## 住民運動を論文に西陣賃織労働者の

西沢いづみさん

西沢いづみさん(西京区)はこの西沢いづみさん(西京区)はこの代の差別を読み解く』(ハーベスト社)代の差別を読み解く』(ハーベスト社)に「西陣地域における賃織労働者のに「西陣地域における賃織制度におけう地域性、残存する賃織制度におけう地域性、残存する賃織制度における織元と賃織の従属関係などを分析、上京生活を守る会や健康を守る会の上京生活を守る会や健康を守る会の上京生活を守る会や健康を守る会の運動を紹介している。

事例を中心に」の論文も発表してい計――白峯診療所および堀川病院のにおける住民組織の役割の歴史的検における住民組織の役割の歴史的検における住民組織の役割の歴史的検明を立て、明大学の研究誌に「地域医療

[入会] 中村誠輝(西京区)、光永敦(上京区)、西脇いく子(下京区)、一路いく子(下京区)、一路のでは、光永敦(上京区)、田林誠輝(西京区)、光永敦(上京区)

久田幹夫(与謝郡伊根町) [**死去**]定免政雄(大阪府堺市)、和

# の民主運動史を語る会 )懇親会のお知らせ

ح き 6 月9日

ところ 京都市職員会館かもがわ

河原町竹屋町東入、石長旅館の奥

ハシズノ



## (士) 午後2時~ \_

## 望田幸男 • 同志社大学名誉教授

日本の状況をファシズム研究の第一人者に語っていただく。国政進出まで広言する橋下大阪市長と「維新の会」。戦前と似てきた

(シズムを視つめつつナチズムを考える

仮

会会員。 程終了。同志社大学文学部名誉教授(ドイツ近・ 現代史)。 1931年山梨県生まれ。京都大学大学院博士課 非核の政府を求める京都の会代表。

日本とドイツ』 向日市在住。 出版社)、 など多数。 『戦争責任と戦後責任』(かもがわ出版)現在 ドイツの鏡に映る日本』(新日本イツ』(ミネルヴァ書房)、『ナチスの国任。著書に『二つの戦後、二つの近代―

ちしています。(会員外の方は資料代300円\*会員外のみなさんもふくめ多数のご来会をお待 ちしています。 が必要です

先は、

0 7 5

 $\begin{pmatrix} 4 & 6 & 1 \\ 6 & 1 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 0 & 9 & 0 \\ 0 & 3 \end{pmatrix}$ 

藤原さん。

同な ..封の葉書でお申し込みください。 午後5時から同じ会場で懇親会を開きます。 会費3000円。

### 情報 スクラップ





藤原ひろ子さんら 戦争体験者が刊行



び騙されないで」と訴えている。 神話と私たちのくらし」と副題のつ このほど刊行された。「戦争・原発・ ように戦争体験を語り継ぐ」冊子が b んらの手記や、資料などを収録し、 平野喜三、奥山イク子、山岸道子さ などを明らかにしている。 ため国はどんな方策をめぐらしたか のためにやったのか」「国民総動員の バーが論議を重ね執筆、 い年よりたちの語らいの会」のメン いた冊子は、「名もなく貧しく心美し いったい誰がしかけたのか」「なん が中心になって「再び騙されない B 5 判 32 頁、 藤原ひろ子さん(元衆議院議員) 頒価300円。 あの戦争は 横関武、 連絡 一再

催 館大学国際平和ミュージアムは 案内 国際平和ミュ ムが開設20周年 ユージア 立. 開

命

育郎名誉館長が「放射能リテラシー 後1時30分から同大学創思館で安斎 能と人類の未来」展を開く。 月27日まで中野記念ホールで「放射 設20周年を記念し、5月15日 のすすめ」と題し記念講演を行う。 ぶ場を提供する。6月10日 めぐる歴史などをパネルで展示し学 ついての基礎知識、 原子力発電所を (日) 午 被曝に から7



後

記

投稿をお願いします。 私は…」は引き続き掲載しますので 載せました。「私も会員です」「その時、 変則的ですが14頁に増やしてすべて をすすめています。 寄稿を掲載することができました。 記念としてひろく会員の皆様からの ・ゴールデン・ウイー 今号は200号 クに編集作業

な紙面を復活させたいものです。 などがきれいに印刷できなくなって 号から簡易印刷になり、とくに写真 のためにも会員拡大にご協力を。 のためですが、 います。これは会員減による財政難 ・お気付きと思いますが、 早く元に戻して鮮明 昨年11 そ 月

田先生の記念講演も魅力的です。 月9日の総会でもお配りします。 者索引も付録として付けますが、6 わせて、 会と懇親会にぜひ出席してください。 ▼151号から200号までの合 「電子ブック」を準備しています。 次号にはこの5号分の執筆 望 合 本